

# ヨルバ映画（ナリウッド）における呪術的特徴： 31 作品についての考察

## Magical Aspects and Characteristics in Yoruba Nollywood: Some Remarks out of 31 Contents

中 村 博 一\*

Hirokazu NAKAMURA

**Abstract :** For many Japanese, it seems to be difficult to assume that growing success of Nollywood would be in relation with some “SFX” techniques for mysterious teleport and magical transforming, which resonate so much with the audiences in local contexts. This article examines recent 31 Yoruba Nollywood movies which were selected randomly from the online guide of the AM Yoruba. 22 contents out of the 31 include mysterious or magical scenes and 6 are peculiarly involved with “money rituals”. 9 are without any magical setting and more than half of them focus on domestic problems which are familiar with Japanese audiences. But many contents with magical scenes, too, raise issues for family relationships. The article explores common features and differences between the two kinds of contents and suggests that those movies which contain mysterious settings would dramatize ordinary issues with very localized idioms although they reflect harsh situation or crisis of everyday life.

キーワード：ナリウッド，ノリウッド，ナイジェリア，文化人類学，メディア研究

### ナリウッド<sup>1</sup>としての呪術

ナリウッド隆盛の一要因が呪術にあることはわれわれ日本人にとって理解がむずかしいようである。2009年にテレビ番組のリサーチャーから問い合わせが舞い込んだことがある。その名が日本でも知られはじめたナリウッド人気の理由を教えてくださいとの依頼だった。当時ナイジェリア北部のビデオ映画報告を準備しており<sup>2</sup>、特殊効果で頭の中の呪術的イメージが視覚化できるようになったことを強調した。ところが日本の視聴者が納得できる説明がほしいと「屋外の娯楽の少なさ」にまとめられてしまった。これはリサーチャー自身がわたしの言葉に疑問をもっていたことを示しているのだろう。今年度の人間科学部の講義でも参加者のひとりがナリウッドを登

---

\* なかむら ひろかず 文教大学人間科学部

表課題にした。ブームの要因をナイジェリアの「娯楽のなさ」であると明言したのは印象的だった。

しかし海外では妖術や憑霊がハリウッドの特徴であることがよく語られてきた。例えば、2010年10月に開催されたナイジェリア映画祭「ハリウッド・ナウ！」のディレクター、フェニックス・フライは、ハリウッドの多くは伝統信仰がナイジェリアの主要宗教であるイスラム教やキリスト教と共存する様子に注目し、簡単なビデオ効果を用いて見事におばさんを悪魔に変身させ、邪悪な動物霊を祓うのを見せていると述べている<sup>3</sup>。ハリウッドになじみのある者からすると「娯楽のなさ」はかなりずれた反応であり、やはり呪術が気になるのである。

## 研究の方法とハリウッドの現在<sup>4</sup>

今回はこの点をあらためてコンテンツで確認してみようと思う。対象としたのは最近製作されたヨルバ語のハリウッド31本である<sup>5</sup>。筆者はこれまで北部ハウサ語圏の忍者やカンフーの映像作品を中心に調査し、妖術と忍者の親和性やイスラムとカンフーの関連性を考察してきた。そのためハウサ語作品における呪術性についてはある程度把握しているものの、ハリウッドの一角として無視できないヨルバ語作品はあまりよく知らなかった。こうしたことから、ハウサ語圏のメディア研究をより俯瞰的な視点で広く見直す必要を感じており、今回ヨルバ語作品に注目することとした。ヨルバ語作品はハウサ語作品に特徴的な歌やダンスと無縁であるが、呪術という点では共通する特徴が見られる。

調査にあたりコンテンツやプロダクションに偏りが出ないように24時間放送のアフリカ・マジック Africa Magic (以下 AM) のヨルバ・チャンネル AM Yoruba を利用した。以前よく引用された年間2400本というハリウッドの作品数<sup>6</sup>については、各紙が報じた2018年1月10日のNFVCB (国立映画ビデオ検閲局) 事務局長談話によると、2016年の1023本から2017年の946本へと減少傾向である。近年のトレンドとして4時間1本として提出された作品がその後分割され配給される事情も影響しているようだ。言語による作品分類では英語が67%、ハウサ語が16%、ヨルバ語が10%となっている。ストーリーラインの社会的関連性が高いハウサ語ヨルバ語作品の減少が指摘されており、特にハリウッド以前から長い歴史のあるヨルバ語作品数の動向が注目されている<sup>7</sup>。しかしこのヨルバ・チャンネルは再放送される作品をあまり見ないので現在も多数の作品が生み出されていると思われる。

視聴は2017年9月はじめよりナイジェリアで開始し、帰国後はAM番組表を参照元とした<sup>8</sup>。連続ドラマやバラエティ番組を除き、1時間から最長でも4時間程度(2部構成を含む)の単独作品を見ていった。今日のハウサ語ヨルバ語作品はほとんどが英語字幕つきであり、ヨルバ語はほとんどわからないためこの字幕を頼りに視聴した。予想に反し作品群の多くがYouTubeにアップされており、同名異話の作品も散見されるため、番組表の作品紹介とコンテンツを確認しながら作業をすすめた。その結果31本のほとんどについてYouTubeで視聴できた。ナイジェリアで知った作品についても再視聴することができた<sup>9</sup>。

ハリウッドとYouTubeについては、2017年10月4日のBBCラジオハウサ語プログラムのカニウッド(ハリウッドのハウサ語作品)特集が言及している。ゲストのバイエロ大マスコミ学科のA. U. アダム教授はビデオ映画産業の諸問題を指摘する中で、YouTubeと資金の未回収を大きな問題としている<sup>10</sup>。調査地ソッコトのプロダクションも予告編の宣伝に意欲的でわたしが代わりにYouTubeにアップしたことがある。しかし本編をアップするリスク(資金が回収できな

い)は十分認識しており、なぜヨルバ語ビデオの無料視聴が可能になるのか確認が必要である。YouTubeのプレミアムパートナーシップを獲得し6年という短期間に成長したIbakaの他、Oleku等のネットTVロゴがついている作品も多く、数万回以上の再生が珍しくない。作品検索の際にこうしたネットTVの課金サイトへ誘導される場合があり、有料システムも稼働していると思われる。現在は知人の多くがスマートフォン視聴に移行しているので、ターゲットはスマホユーザーかもしれないが、こちらも確認が必要である。前述のNFVCBが海賊版摘発を繰り返している<sup>11</sup>ことからするとYouTube上の無料ナリウッドについて再生回数による収益は理解できるものの多数の作品の著作権者の扱いについては疑問が残る。さらに、北西部ソコトで調査中、筆者の周囲でネット視聴する者はほぼ皆無であり、スマホユーザーは路上の売り子がSDカードに入れた作品を視聴している(2017年8月-9月)。ネットTVによる視聴は南部のインフラが異なる場所や富裕層で実践されているのかもしれないが、今後の調査を待ちたい。

## 呪術との関連・非関連

今回視聴した31本のうち呪術と何らかの形で関連するのが22本である。この中にはクレジットタイトルで「薬草呪い師 herbalist」、「シャーマン」、「ババーラウオ babaalawo」と表現される狭い意味での呪術師だけではなく、イファやオシユンをはじめとするヨルバの神々の「祭司 priest/priestess」、イスラム教の導師「アルファ alpha」<sup>12</sup>と多様なキリスト教会の牧師「パスター pastor」といった人々も含んでいる。一方でほとんど関わらないように見えるのは9作品であり、まずはそうした「非」呪術的コンテンツを概観してみよう。なお、冒頭の数字は表1の参照番号である。

## 14. ジョコトラ Jokotola

社会劇的な作品。夫オロロンファがすべて支配し、働きに出ることも買物も許されない妻ジョコトラが、侵入した武装強盗に襲われ死ぬ。豪邸に住んでいるのにわずかな金しか所持しないジョコトラを強盗は疑った。夫は絶望し町を彷徨する。

## 12. イナ・イフェ Ina lfe

優秀な刑事ルルが家庭では妻ボラジに暴力を振るうDV夫であり、何度も反省しては暴行を繰り返す。最後にルルは自分に絶望し自殺する。

## 1. アアイエ・ミ Aaye Mi (My Space)

夫フェミに懇願され若い頃に中絶、不妊となった妻モヨが主人公。フェミの友人デレの依頼で妊婦のフィアンセ、ララを自宅に受け入れる。おとなしかつたララの態度が日に日に目に余るものとなる。フェミは取り合わないが、ララが実は夫の愛人であることが暴かれ、孫が欲しい姑はララ側につく。モヨは追い出されるが、覚悟を決め自宅に戻る。嫁姑愛人が殴り合い、大げんかに発展するが、いさめるフェミも巻き込まれ、意識を失う。

## 11. エニオバケ Eniobake

キャリアウーマンの妻エニオバケのため朝食もつくる優しい夫ランス。出張中、とある宿でエニオバケは昔の教え子ベティと再開する。ベティは失恋の傷を抱えていた。エニオバケのすすめでしばらく夫婦の自宅で傷をいやすこととなる。失恋相手は実は夫ランスであり、夫婦の関係がギクシャクしはじめる。夫婦の諍いの巻き添えで子どもが死に、ベティとランスの不倫の秘密が暴かれる。ランスは妻に謝るが、エニオバケは許さず家を去る。

表1 視聴作品の構成 ○-該当 ×-非該当 △-条件付き該当

| 参照番号 | タイトル               | 製作年   | 呪術 | 格差問題化 | 金運儀礼   | 復讐 | 嫉妬 | 因果心報 | 夫婦問題 | 不倫妊娠 | 親子問題  | 兄弟姉妹問題 | 跡継問題 |
|------|--------------------|-------|----|-------|--------|----|----|------|------|------|-------|--------|------|
| 1    | Aaye Mi (My Space) | 2015  | ×  | ×     | ×      | ×  | ○  | ○    | ○    | ○    | ○     | ×      | ○    |
| 2    | Adijatu Kubura     | 2014  | ○  | ○     | ×      | ×  | ×  | ○    | ×    | ×    | ○     | ×      | ×    |
| 3    | Aditu              | 2017  | ○  | ○     | ○ (誤解) | ×  | ×  | ○    | ○    | ○    | ○     | ○      | ○    |
| 4    | Agba Meta          | 2016  | ○  | ○     | ×      | ○  | ○  | ○    | ○    | ○    | ○     | ○ (異母) | ○    |
| 5    | Ajala Iji          | 2014  | ○  | ○     | ○ (破滅) | ○  | ×  | ○    | ○    | ×    | ×     | ×      | ×    |
| 6    | Araba              | 2017  | ×  | ×     | ×      | ×  | ×  | ○    | ○    | ×    | ○     | ×      | ○    |
| 7    | Asoro              | 2016  | ○  | ○     | ×      | ○  | ○  | ○    | ○    | ○    | ○     | ×      | ○    |
| 8    | Awodi Oke          | 2017  | ○  | △     | ×      | ○  | ×  | ○    | ×    | ×    | ○     | ×      | ○    |
| 9    | Binta Ofege        | 2016  | ○  | ○     | ○ (未遂) | ○  | ×  | ○    | ○    | ×    | ×     | ×      | ×    |
| 10   | Egungun Eja        | 2016? | ○  | ○     | ○ (破滅) | ×  | ×  | ○    | ○    | ○    | ○     | ○ (兄弟) | ○    |
| 11   | Eniobake           | 2016  | ×  | ×     | ×      | ×  | ×  | ○    | ○    | ○    | ○ (死) | ×      | ○    |
| 12   | Ina Ife            | 2016  | ×  | ×     | ×      | ×  | ○  | ×    | ○    | ×    | ×     | ×      | ×    |
| 13   | Iwe Iranti         | 2013  | ○  | ○     | △ (言及) | ○  | ×  | ○    | ○    | ×    | ○     | ×      | ○    |
| 14   | Jokotola           | 2016  | ×  | △     | ×      | ×  | ×  | ○    | ○    | ×    | ×     | ×      | ×    |
| 15   | Kabi O Osi         | 2015  | ○  | ×     | ×      | ×  | ×  | ○    | ×    | ×    | ○     | ×      | ○    |
| 16   | Kokoro             | 2016  | ○  | ○     | ×      | ○  | ○  | ○    | ×    | ×    | ×     | ○ (兄弟) | ×    |
| 17   | Kuye               | 2015  | ○  | △     | ×      | ○  | ○  | ○    | ○    | ×    | ○     | ×      | ○    |
| 18   | Matanni            | 2016  | ○  | ×     | ×      | ×  | ×  | ○    | ○    | ×    | ○     | ×      | ○    |
| 19   | Niniola            | 2016  | ○  | ○     | ○ (破滅) | ○  | ×  | ○    | ○    | ×    | ○     | ×      | ×    |
| 20   | Obun               | 2016  | ×  | ×     | ×      | ×  | ×  | ○    | ○    | ×    | ○     | ×      | ×    |
| 21   | Oro Abele          | 2015  | ○  | △     | ×      | ○  | ×  | ○    | ×    | ×    | ○     | ×      | ×    |
| 22   | Oro Inu            | 2014  | ○  | ○     | ×      | ○  | ×  | ○    | ×    | ○    | ○     | ×      | ×    |
| 23   | Osole              | 2015  | ○  | ○     | ○ (破滅) | ○  | ×  | ○    | ○    | ×    | ○     | ×      | ×    |
| 24   | Oswon              | 2016  | ○  | ×     | ×      | ×  | ×  | ○    | ○    | ○    | ×     | ○ (姉妹) | ×    |
| 25   | Sababi Ati Kadara  | 2016  | ○  | ○     | ×      | ×  | ×  | ○    | ×    | ×    | ×     | ×      | ×    |
| 26   | Sade Odaran        | 2016  | ○  | ○     | △ (類似) | ×  | ×  | ○    | ×    | ×    | ○     | ×      | ×    |
| 27   | Sisi Caro          | 2016  | ×  | ×     | ×      | ×  | ×  | ○    | ○    | ○    | ×     | ×      | ×    |
| 28   | Sisi Eko           | 2016  | ×  | ○     | ×      | ×  | ×  | ×    | ×    | ×    | ×     | ×      | ×    |
| 29   | Tamara             | 2016  | ×  | ×     | ×      | ○  | ×  | ○    | ○    | ○    | ×     | ○ (姉妹) | ×    |
| 30   | Tipa Tipa          | 2016  | ○  | ○     | ×      | ×  | ×  | ○    | ○    | ×    | ×     | ×      | ×    |
| 31   | Sade Pepper        | 2016  | ○  | ×     | ×      | ×  | ×  | ○    | ○    | ○    | ×     | ×      | ×    |

## 27. シシ・カロ Sisi Caro

教会のシスター、カロが牧師や執事と男女の関係となり、表面的な教会の秩序を次々と破壊していく。牧師の妻も若い信者との浮気をばらされてしまう。牧師とはいえ、他人にひどいことをして平気なのを長老から指摘され、皆が罪人であることに気がつく。神がお許しくださるように皆が許さなければならない、怒りすぎではいけないと指摘され、シスターも悪魔に利用されただけだとする。罪の許しを神に請う。

## 6. アラバ Araba

夫を殺害して実業家となった母と乱暴者の一人息子フェミ・アラバ。フェミは母の会社の新人ショラに恋をしてしまう。ショラとの交際で跡取りの自覚をもち真面目なビジネスマンとしてフェミはよい方向に向かうが、実は母の依頼によりショラが恋人を演じており、フィアンセがいることが暴かれる。怒り狂ったフェミは気に入らない門番を殺害し逮捕される。母の過去の悪行が子どもに報いを与えることが示される。フェミの上訴を字幕が伝えて終わる。

## 29. タマラ Tamara

実業家の妻タマラと妻を支える夫アデ。ある日妻の妹ソラペが滞在先ホテルで爆死する。アデの素顔が徐々にあきらかになる。女性関係にだらしなく、ソラペにも手を出していた。ソラペが妊娠し、中絶を拒否すると、アデは殺し屋に頼んでソラペを爆死させたのだ。当初はアデの善良さを疑わなかった妻タマラも、真実を知ろうとする。アデの本性が暴かれ、気がついたアデがタマラをも殺害しようとしたところを逮捕され実刑判決が出る。

## 20. オブン Obun

第二子を妊娠した妻エブんに翻弄される夫アキームや周囲を描く。はじめエブんに同情的だった主治医や使用人も自己中心的な態度に嫌気がさし次々と逃げさって行く。実家でも旅行を口実に家族から見放される。エンディングでは生活用品が散乱する部屋で、どうしたらいいの？とエブンが嘆く。

28. シシ・エコ Sisi Eko 運転手つきの車で大都会から田舎に凱旋した娘アモペ。シシ（シスター）・エコを名乗り、自分のコネで中央銀行が村にやってくるなどオオボラを吹く。アモペは村人の金を巻き上げようと海外視察のカラ企画を立ち上げ、父母や兄弟もだまされる。乗ってきた車の所有者が警察と共に現れ、化けの皮がはがされる。巻き込まれただけの運転手アトリともども逮捕される。

このように大半は夫婦、親子など家族をめぐる問題（浮気・妊娠・不妊・暴力）により生じた生活のきしみを扱っている。するとこれら作品がわたしたちの知るドラマから遠い遠い不思議な世界を描いているのではないと気がつくのだが、実は呪術が関わる作品の多くもまた、「非」呪術コンテンツとあまりずれることなくむしろシームレスに、家族をめぐるもろもろが繰り広げられる。つまりこうした、わたしたちにも身近なストーリーに呪術がからむという点が、呪術的コンテンツの特異性だという言い方ができるかもしれないが、習慣的な身振りのように31本中22本の作品に呪術がからんでいることから、やはりこれこそがハリウッドの特徴と言い放ってもよいように思える。

## 呪術のからみ方

では呪術はどのようにストーリーに現れるのだろうか。

「非」呪術的コンテンツと同じように、ある事件が起こり、背後に隠されている真実が明かされるパターンが顕著である。「サスペンスドラマと同じだね」というのはあまりハリウッドを知らない知人（日本人）の感想である。あるいは抱えている問題を呪術師に相談し、真実を知り、現実を変えていくパターン、さらに変えられた現実が新たな問題の根源となる等、様々だ。いくつもの作品に因果応報という表現があてはまるストーリーを確認できる。「種をまく者は刈り取る」との言葉が複数の作品に使われている。西アフリカの運命論<sup>13</sup>を引用するまでもなく、運命や因果についての作品群が目につくのだ。例をあげてみよう。

## 26. シャーデ・オダラン Sade Odaran

若いのにありあまる現金をもつ女性シャーデは武装強盗であり、呪術の力もちいて逃げおおせてきた。逮捕しようとする車もろともドロンと消え、銃を撃っても死なないため、精霊 spiritual のようだとして刑事に恐れられている。呪術師が死体から心臓を取り出しシャーデにわたす。料理して食べれば全能の人間になれると言う。シャーデは友人らと武装強盗団を組織する。しかし刑事も別の呪術師に相談し呪力を手にする。強盗一味は刑事と戦うが、刑事も呪力に守られているため撃たれても負傷しない。いつもの念力が通用せずついにシャーデは逮捕される。その後その母親も窃盗犯であったことが明かされ、母も逮捕される。親子で繰り返される人生を天罰 nemesis としてノワールに描いて終わる。呪術はシャーデの運命を繰り返す方向に使われ、同時にその運命を断ち切るように刑事によって使われる。本作品の呪術師はシャーデ側の邪悪な呪術師と報酬を受け取らず刑事を助ける善い呪術師に分かれる。

## 18. マタンミ Matanmi

隠された真実が明らかになる作品である。主人公ダレの運転ミスで同乗女性（フィアンセ）オベミポシを死なせてしまう。ダレは長らく悲嘆にくれるが、周囲のサポートにより立ち直り、結婚相手ベルミと出会う。不思議なことが様々起こるが（オベミポシの霊の仕業とされ、儀礼も行われる）、ベルミは妊娠し、病院で出産する。ところがえい児とメモを残し失踪する。ダレは妻ベルミを探し、メモに記された住所を訪ねる。住人の女性エトゥンデはベルミなぞ知らないと言う。会話をするうちエトゥンデが亡きオベミポシの叔母と判明する。ダレはパニックに陥り、呪術師ファディベに相談する。ファディベが隠された真実を語る。オベミポシは一人っ子であり、死後にその霊がベルミとなりダレとの間に子どもをつくる。葬式を出してくれるものがないことが不幸とされるヨルバ社会で両親のためでもある。生前オベミポシはダレとともに生涯裏切らないとする誓約儀礼を行っていたが、子どもができオベミポシの両親にわたれば、ダレを自由にすると、呪術師ファディベと密約を結んでいた（オベミポシは瞬間移動しながらファディベと話す）。これらは伏線であり、最後に実は……というわけで呪術師により明かされる。

## 金運儀礼 money ritual の位相

こうした秘密開示型の作品は実に多いのだが、ナイジェリア的な格差社会を巧みに表象し、問題化する「金運儀礼 money ritual」も開示型の呪術のからみ方のひとつと考えられる。紳士然とした企業家や政治家の成功の裏には金運儀礼があり物語のなかで経緯が暴かれていく。呪術関連作品 22 本のうち 6 本<sup>14</sup>が金運儀礼に関連している。日本語の金運と異なり邪悪さが備わった反社会的な邪術的儀礼として描かれる。かかわった者どもは秘密を暴露され、破滅的な結末をむかえることとなる。金運儀礼で富を得た人々を直接描く 3 本は以下のようなものである。

## 10. エグングン・エジャ Egungun Eja

ボラハンとダボは仲のよい兄弟、兄のボラハンは子どもが3人、会社経営も順調である。ダボは裕福な兄を頼りにする情けない弟、ボラハンはそんなダメ男の願いをかなえる立派な兄として描かれる。ダボは結婚するがなぜか子どもに恵まれない。母がバスター（牧師）に相談する。神の精霊の啓示としてダボが養子を取ると危険であり、生まれるはずの子どもをダボはすでに持っていると言われ伝える。この言葉が家族に混乱をもたらすが、実はボラハンとダボには共通の秘密があった。ボラハンは自分の精液を用い、金運儀礼を受けていた。社会的に成功したが、子どもは持てなくなった。そのためダボを拝み倒し、薬で眠らせた妻と関係させ3人の子どもを授かったのだ。ボラハン立派な兄どころではなく、この秘密を守ろうとダボを襲撃させるが失敗、秘密が暴かれる。殺人を企てたボラハン逮捕され、妻は別れを告げる。

## 23. オソレ Osole

豪邸の主人ダミラレと田舎娘のオモニの人生が交錯する。家族のいないダミラレは陽気な使用人たちと日々を過ごしている。貧しい家族のため都会でパン売りをするオモニがある日屋敷にやってくる。ダミラレはオモニに目をつける。ダミラレの巨額の財産は実は人間を犠牲にする金運儀礼から生まれたのだ。ダミラレはオモニを殺害し、なじみの呪術師<sup>15</sup>ババ（アウォベミ）のもとに心臓を届ける。ネット詐欺で有名なヤフー・プラスも手助けして成功していると豪語するババは、ダミラレのために何度目かの金運儀礼を行う。「ジョナサン<sup>16</sup>より金持ちになるぞ」と言い、呪物をわたす。ところが殺害されたオモニは死霊となり、警察に現れダミラレの悪業を告発する。ダミラレは屋敷に戻る車中、武装強盗に呪物を奪われ射殺されてしまう。死霊オモニは呪術師ババの家にも現れ、瞬間移動しながら、ババを襲う。ババはオモニの法力に敗れるだけでなく、オモニが実の娘であることを知り愕然とする。邪悪な人間は無駄な人生を送ると独白し、死ぬ。

## 19. ニニオラ Niniola

ニニオラは母の果物屋を手伝う一人娘。大学の入学許可が下りるが生活が苦しいため、諦めようとする。母の上客で地元の裕福な中年紳士ショボワレがニニオラの学費援助を申し出る。ショボワレは離婚したばかりで、ニニオラの母を説得しニニオラと再婚できるように手をまわす。ショボワレには同じく裕福な友人ジャエオラがおり、ニニオラの友人で金好きな娘に目をつける。実は二人は金運儀礼を行い、妻や若い娘の生気を吸い取って富を蓄えていたのだ。ニニオラの友人はジャエオラと暮らすうち徐々に衰弱し死んでしまう。一方ニニオラと再婚したショボワレは儀礼を繰り返すが金運は上向かず、ニニオラに変化もない。困ったショボワレが呪術師に相談すると無垢な人間（ニニオラ）を金運儀礼に利用したとして、悲劇的な末路を予告される。儀礼中に血を吐きショボワレは死ぬ。最後にニニオラが天使であることが示され、邪悪なジャエオラも神罰が必至であることを暗示して終わる。

このように金運儀礼の先には必ず破滅が待っている。金運儀礼と関わる残りの3作品は、金運儀礼の未遂や儀礼を行ったと誤解される人々を扱うが、これらも金運儀礼の性格を裏づけるので概要を記す。

## 5. アジャラ・イジ Ajala Iji

富豪の主人（オウオトウトウ）がお抱え運転手アジャラの妻アピンボラに横恋慕する。女性をたぶらかし、金運も上がる呪薬を手に入れる。さらにアジャラが事故にあうよう別の運転手に金

をつむ。アジャラは事故に会い妻にも逃げられる（その後富豪の主人と再婚する）。しかし実はアジャラとアジャラ襲撃を依頼された運転手は信頼しあう仲間であり、主人の邪悪な計画を呪術師に相談し、対策を練っていた。後半部で邪悪な上司を懲らしめていく。事故も車椅子生活も偽装であったことが示される。

### 3. アデイトウ Aditu<sup>17</sup>

貧しい修理屋ボラハンは、数年して豪邸に住むようになる。結婚し子どももできるが、ひとり生まれると上の子がなぜか死んでしまう。こうした悲劇が繰り返され、ボラハンが金運儀礼を行ってきたからではないかと家族たちは疑いをいだく。以前のボラハンの貧しさは、実は従業員が呪術を使い成功の邪魔をしていたためであり、イスラム導師アルファの指示でボラハンが祈りと断食に取り組む。従業員の呪いが封じられ（従業員は正気を失い、町を彷徨する）、ボラハンが成功を手にする。こうした真実が開示され、子どもの死亡はボラハンの母親の過去の行為（子ども時代ボラハンを救ったオシュン神を無視したこと）にあると示唆される。

### 9. ビンタ・オフエゲ Binta Ofege

近年の経済不況<sup>18</sup>により会社のマネージャーから一転、失業者となったバデと生来の詐欺師ビンタ<sup>19</sup>が金運儀礼をめくりクロスする。バデは妻に逃げられ住む場所にも困るようになる。イスラム導師アルファや呪術師に相談するが、口をそろえて「いずれ裕福になるから」（いつかはわからないが）と言われる。バデは困り果てついに呪術師に金運儀礼を頼み込む。妊娠した女性を3人連れてくるように言われ2人を確保する。3人目を探すうちにビンタに目をつけ誘拐する。ビンタは妊婦を装い政府の支給する薬剤詐取を企てているところだった。呪術師はビンタを妊婦でないと見抜く。しかたなく意識朦朧のビンタを空き地に放置したバデは、ビンタが指名手配犯であることに気づく。バデは通報し、呪術師に儀礼をやめることを伝える。ビンタ逮捕の賞金を手にしたバデは豪邸と車を入手し子どもと幸せな暮らしを再開する。

このように金運儀礼のイメージは徹底しており、人間の身体（一部）を使った反社会的な呪術なのである。ある日突然裕福になるだけでは反社会性を帯びない。ビンタ・オフエゲのバデも金運儀礼を途中でやめ指名手配のビンタの賞金によって、予言通り金持ちになるが、バデを捨て金持ちに走った妻が正気を失い町中を徘徊するのに対し（因果応報的結末）、バデの変貌は肯定的に描かれる。運命や神命で成功するのは望ましい展開なのだ。今回の31本には同様な作品アディジャト・クブラが含まれている。呪術的ニュアンスが濃いながらもバデがそうなったように、金運儀礼と対照的なハッピーエンドとなっている。

### 2. アディジャト・クブラ Adijatu Kubura

一人娘のアディジャトは父とふたり暮らし。敬虔なムスリムで父はモスクを運営しているが、生活が貧しく苦勞が絶えない。ある日、賢者が住む村の夢を見る。村は実在し、道を覚えていたアディジャトは村を訪れ、夢で見た賢者に出会う。父は長年神様につくしているのになぜ貧乏なのか（報われないのか）と賢者に問いかける。すると神は賢者を通じ2年だけ裕福になれると伝える。神意により尽きない財を手に入れた父娘は困窮する人々を助けてまわる。2年が過ぎ、神の言葉通り財産を失う覚悟を決めたが、2ヶ月過ぎても富豪生活は変わらない。そこで賢者の村を再訪し、問いかけると父娘が金を正しく使っているから永遠に財産が使えると神の言葉が伝えられ、幸せな結末となる。

こうした貧富にまつわる作品は疑いなくナイジェリア社会の格差を背景としていよう。その格差は真面目な努力の継続だけでは全く回収できず矛盾のまま残される。そこに呪術的コンテンツが入り込む余地があるだろう。他の人間を犠牲とする金運儀礼は邪悪で反社会的な方法として破綻に至り、運命や神意による成功は祝福される物語として描かれる。この対照性は一貫していると言ってよい。カノ出身のハウサの知人（運転手）は「金持ちは生きた人間を人形のように使い、言うことを聞かせ財産を蓄えるんだ」と真顔で語ったことがあったが<sup>20</sup>、この言葉は端的に金運儀礼を示していると思われる。人々の頭の中にはビデオ映画を超えて格差と金運儀礼へのクレイムが渦巻いているようである。

## 呪術的コンテンツの広がり

前述したように呪術に関わる作品も、「非」呪術的コンテンツと家族をめぐる様々な問題系においてシームレスにつながるように見える。では多くの作品がなぜ呪術的に表現されるのかを問うこともできるだろう。金運儀礼からすれば、社会的格差を呪術が具体的に問題化するからだと答えられるかもしれない。しかし考えてみれば、格差は大きな社会問題にせよ、日々の問題としては直近の身の回りで起こるトラブルのほうが優先されるだろう。今回視聴した「非」呪術的コンテンツも、あまり格差をクローズアップしておらず、9本の半数は不妊や不倫を含む夫婦のトラブルをテーマとしている。同様に呪術関連でも夫婦関係を問題化する作品は富の問題より多い（表1）。夫婦関係自体が呪術に巻き込まれない例も含まれるが、呪術によって夫婦の問題にメリハリがつけられる。古典的な妖術研究のように、一人の男をめぐり恋敵を呪術で狂わせる（4）、妊娠した相手を呪術で陥れる（7）、弄ばれ捨てられた娘のため男の家庭を呪う（22）、妻の妹を妊娠させ夫がもたらした危機を呪術的に回避する（24）等々。そこに跡継ぎ（自分の墓を守る者）や親子の問題が重なり合ってくる。ハリウッドの呪術はこうした日々の問題を衝撃的なストーリーをもって過剰に演出してくれるエンターテインメントと言えようか。

以前、北部のメディアコンテンツにおける忍者が、「拝金主義の蔓延や貧困の遍在等々」「現実の目に見えない邪悪な何かを」「視覚的に埋め合わせている」と書いたことがある<sup>21</sup>。当時はわたし自身の衝撃の大きさから、視聴の楽しさまで気にすることができなかった。本稿を準備するにあたり、まとまった数の、しかも近作のハリウッドとまじめに向きあってみたが、あらためて呪術力としてのハリウッドを認識することができた。今回は紙面の関係で割愛した呪術作品とともにわたしたちに理解しにくいと思われるハリウッドの門番の現象を論じてみたい。

<sup>1</sup> ナイジェリア発のビデオ映画産業と作品を広く Nollywood と呼ぶ。その起源は 1990 年代はじめにさかのぼるが、この呼び方が広く知られるようになったのは 00 年代に入ってからである。現在日本語表記はハリウッドとハリウッドがあり、どちらが正しいのか聞かれることがある。原語の発音はハリウッドに近いものの、意味的にはナイジェリアのナがつくハリウッドがわかりやすい。このため本研究でもハリウッドを用いる。由来となった Hollywood にしても戦前のメディアでハリウッドとホリウッドあるいはホーリーウッドが併用されていたことを記しておく。

<sup>2</sup> 中村 2010 「忍者表象のグローカリゼーション」『言語と文化』23、256-271 頁

<sup>3</sup> 前傾書 271 頁、また以下のガーディアン紙（2006 年 3 月 23 日付記事）も参照のこと。https://www.theguardian.com/film/2006/mar/23/world.features（2018 年 1 月 26 日閲覧）

<sup>4</sup> 本研究にあたり平成 29 年度文教大学個人研究費の助成を受けた。

- <sup>5</sup> 31 の数字自体に意味はない。時間と体力的制約による。
- <sup>6</sup> 中村 2010、258 頁；以下の「ナリウッドナウ」のウェブサイトでは 2006 年で英語 42%、ヨルバ語 37%、ハウサ語 18%である。http://www.nollywoodnow.co.uk/beginners/ (2018 年 1 月 30 日閲覧)
- <sup>7</sup> “Censors Board scores Nollywood movies high.” とする記事がナイジェリア国内各紙で報じられた。例えばヴァンガード紙については以下を参照 (2018 年 1 月 22 日閲覧)  
https://www.vanguardngr.com/2018/01/censors-board-scores-nollywood-movies-high/
- <sup>8</sup> https://africamagic.dstv.com/channel/africa-magic-yoruba (2018 年 1 月 25 日現在の AM Yoruba の URL)
- <sup>9</sup> 帰国時点で視聴できない作品もあったが数ヶ月後には可能となった。
- <sup>10</sup> “Shirin Hantsi” BBC Hausa 6:30-6:59GMT (2017 年 10 月 4 日放送)
- <sup>11</sup> http://punchng.com/censors-board-raids-benin-city-seizes-unclassified-films/ (2018 年 1 月 28 日閲覧)
- <sup>12</sup> Peel, J. D. Y. 2000 *Religious Encounter and the Making of the Yoruba*. Indiana U. P., p.190.
- <sup>13</sup> Fortes, Meyer 1959 *Oedipus and Job in West African Religion*. C.U.P.
- <sup>14</sup> 他にも金運儀礼に言及する作品はあるが、直接関わるのは 6 本である。
- <sup>15</sup> イファ Ifa (占い) の司祭として裁判官に言及される。
- <sup>16</sup> 最悪の大統領とされたグッドラック・ジョナサン (2010-15 在職)。本作品は 2015 製作。
- <sup>17</sup> ロープバズル、文字通りには解けないように結んだもの (R. C. Abraham 1958 *Dictionary of Modern Yoruba*. Univ. of London Press., p.138)
- <sup>18</sup> 2014 年にはじまる石油価格の下落によりナイジェリア経済は SAP 以来の危機に陥った。今回の作品群は 2016 年製作が大半で大きな経済変動に右往左往する庶民の生活も描かれている。またボーコー・ハラームへの言及も複数の作品で確認した。
- <sup>19</sup> この作品で詐欺師ビンタ役のジュモケ・オデトラは 2016 年 BON 賞 (Best Nollywood Awards) ヨルバ部門の主演女優賞にノミネートされた。(https://en.wikipedia.org/wiki/2016\_Best\_of\_Nollywood\_Awards 2018 年 1 月 20 日閲覧)
- <sup>20</sup> 2013 年夏の調査中、長時間の移動の休憩時の話題。
- <sup>21</sup> 中村 2010、271 頁